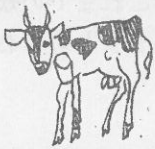




救援ニュース

都市生活現地救援本部
西宮市今津山中町9-9
都市生活西宮センター内
電話：0306181792



地域再生・生協再生

真冬の寒空に着の身着のまままで放り出された被災者達の冬との闘いは2ヶ月になろうとしています。避難所の様子も変わりつつあります。小学校や公的機関の建物から、避難者の退去、別の場所への移動、避難所の再編が進みつつあります。とくに、新学期を迎えるまでに、学校関係の避難所を減らそうとする動きが、行政側で進みつつあります。安心できる当面の住環境の整備不十分のままでのこの措置が、ふたたび被災者の不安を大きくしないようにしなければなりません。

混乱状態の中で、救援物資の分配がうまくいかず、この2ヶ月間の間に、避難所ごとの格差が発生しており、避難所の統廃合と併せて、救援物資をはじめとして、救援活動全体を見直す必要が生じています。

「都市生活」は、地震直後から地域住民の救援のために炊き出しを継続してきました。実施された炊き出し一覧を本紙2ページに掲載します。ここに記載されたものは救援本部で把握しているものだけであり、これ以外にも組合員が独自に実施してきたものも沢山あります。

「都市生活」の炊き出しは、生協による地域住民の救援活動であり、地域の再生なくしては「都市生活」の再生はないとの考えにもとづくものです。それゆえ、今後も長期間にわたる炊き出しを継続する予定です。炊き出しに対する「都市生活」のこの方針は、「都市生活」全体の活動方針の基盤となるものあり、すべての生協と地域との関係のあり方を問い直す上で重要な示唆を与えるものです。

長期的炊き出し実施のためには、全国の生協の仲間からの物的、人的支援が必要です。がんばる「都市生活」に声援と支援をお願いします。

現地救援本部からのSOS!

スタッフ不足深刻。電話ください。

0306181792

「都市生活」の炊き出し活動



地震発生から10日経った1月27日から、「都市生活」の組合員たちが中心となって避難所での炊き出し活動を行なってきました。はじめは「都市生活」の食材をもちいて行われていましたが、現地救援本部を窓口、支援生協からの支援物資や直接駆け付けての応援によって組織的に取り組まれてきました。3月4日をもっていったん中断し、今後の取り組みについて見直すことになりました。そこでこれまでの炊き出し活動（ほとんど昼食）の実績（救援本部が把握している分のみ）をまとめておきます。

段上小（西宮市）	1/27金～2/1水	味噌汁、豚汁等	計2300食
菊水小（兵庫区）	1/28土、2/2木、2/10金	雑炊、オニギリ等	計1700食
瓦木中（西宮市）	1/28土～1/29日	味噌汁、豚汁	計500食
春風小（西宮市）	1/30月～1/31火	味噌汁、粕汁	計800食
樋ノ口小（西宮市）	1/30月～2/1水	粕汁、味噌汁、さつま汁	計850食
瓦木小（西宮市）	2/2木～2/4土	味噌汁、芋がゆ、うどんがゆ等	計1200食
長楽小（長田区）	2/4土、2/16木、2/24金	雑炊	計6000食
水堂小（尼崎市）	2/7火～2/9木	味噌汁、豚汁	計750食
春風公民館（西宮市）	2/7火～2/9木	味噌汁、煮物	計150食
精道中（芦屋市）	2/10金	豚汁	計500食
平木中（西宮市）	2/13月～2/15水	味噌汁、卵とじ	計1500食
西宮中央図書館（西宮市）	2/13月～2/17金	味噌汁、煮物等	計250食
須磨在宅福祉センター（須磨区）	2/14火	おでん	計120食
八本松市民公園（須磨区）	2/15水	雑炊	計40食
平木小（西宮市）	2/16木～2/17金	味噌汁、芋雑炊	計1000食
用海小（西宮市）	2/16木～2/17金	豚汁、芋雑炊	計300食
南駒栄公園（長田区）	2/19日	雑炊	計200食
園田東小（尼崎市）	2/21火～2/23木	味噌汁、煮物	計150食
西灘小（灘区）	2/22水	雑炊	計2000食
大原集会所（芦屋市）	2/21火～2/24金、2/27月、3/1水～3/3金	豚汁、ぜんざい、肉じゃが等	計840食
安井小（西宮市）	2/23木～2/24金	豚汁、芋雑炊	計800食
あじさいセンター（伊丹市）	2/27月～3/1水	味噌汁、芋雑炊等	計150食
マリスト国際学校（須磨区）	2/28火	雑炊	計500食
津門小（西宮市）	3/1水～3/4土	豚汁、ぜんざい、おでん等	計1000食
池尻文化センター（伊丹市）	3/2木～3/3金	味噌汁、肉じゃが、芋雑炊等	計120食

被災状況調査（中間集計）

激震地区の東神戸支部と西宮支部の組合員の被災状況調査を開始しましたが、被害の甚大さの前に遅々として進まない状態が続いています。とりあえず、2月23日現在のデータを掲載します。今回の地震による被害は、物的、人的、精神的なものまで多岐にわたり

ますから、総合的に把握することは困難で、現在は、家屋の損害を中心に調査を進めています。

組合員関係の死亡者は、本人家族併せて4人になりました。お悔み申しあげます。負傷された方の実態はまったく把握できていません。

家屋について見ますと、東神戸支部と西宮支部の組合員の30%近くの方が2月23日現在も避難中であり、とくに東神戸支部では家の損壊が13%もあることから、今もなお避難所生活をしておられると思われます。家屋の損壊については十分な聞き取りができず、ここに挙げられた数字は実際よりも低い値であると思われます。「記載なし」の項の中に損壊が多数含まれているのではないかと想定されますが、今後の調査に待たなければなりません。また、「連絡とれず」の組合員が両支部併せて76名あり、心配です。

神戸西支部、北神戸支部では被害が軽微であったようです。南神戸支部、宝塚支部、尼崎支部でも家屋の被害が少し出ています。

これらのデータは中間的なものであり、被害調査がやっと始まったということをお知らせする以上のものではありません。救援本部としては、被害の

現居住

	東神戸支部		西宮支部	
	計	比率%	計	比率%
在宅	367	56.0	655	58.1
一時避難	196	29.9	275	24.4
転居	10	1.5	47	4.2
記載なし	48	7.3	71	6.3
既に退会	6	0.9	31	2.8
連絡とれず	28	4.3	48	4.3
計	655	100.0	1127	

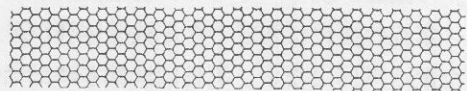
家屋

	東神戸支部		西宮支部	
	計	比率%	計	比率%
全壊	69	10.5	19	1.7
半壊	4	0.6	3	0.3
一部損壊	9	1.4	1	0.1
無事	296	45.2	0	0
記載なし	249	38.0	1045	92.7
既に退会	6	0.9	31	2.8
連絡とれず	22	3.4	28	2.5
計	655	100.0	1127	

人身

	東神戸支部	西宮支部
本人死亡		1人
母死亡		1人
子供死亡	1人	1人

実態にせまる調査を継続し、地域再生と「都市生活」再生の基礎資料を整えるよう努力します。





「今回のボランティアはこれで切り上げて私は帰りますが、それは私にとっては終わりにならないでくれると良いと思う。それは帰ってみないと分からないけど。最終レポートなるものが今ひとつうまく思いつかないので、これで終わります。お世話になり、ありがとうございました」と長文のボランティア日誌を徹夜で書き上げて、一番電車で岩佐は現地救援本部を後にして京都へ帰っていった。都市生活生協西宮センター2階の20畳ほどの広間には寝袋にくるまって男女7人が眠っている。この1ヶ月、この本部で生活し、連日の炊き出しに苦勞を重ねている内に、いつの間にか事務局責任者をせざるをえなくなった坂根が通用門を開けて岩佐を見送った。

しばらくすると、学生ボランティア4人、京都のエル・コープから現地本部入りしている石田と金森が起き出して、朝食前の作業をはじめ出す。役割分担をしたわけではないが、それぞれが働いている。午前中には京都へ帰らなければならない酒井はパソコンを打ちだしている。

前夜に準備しておいた炊き出し用の食材をトラックに積み込み、大原集会所に学生ボランティアが出発したのは9時半である。京大震災救援センターの紹介で、2月中旬以降、常時4、5名のボランティアが現地本部に詰めており、彼らの働きがなければ、現地救援本部は成り立たない状態である。11時、昨夜本部に入った宮崎と山田が被害状況を把握するために、御影から長田区に向かった。ここ西宮市今津山中町界隈は、倒壊家屋もあるが、東灘区や長田区に比べれば被害の少ない地区であるから、現地本部に入ったボランティアには被害激甚地区の見聞の機会を設けることにしている。彼女らが本部に帰ってくるのは夕方遅くだろう。

金森は、全国の生協に救援を要請するための資料となる現地本部の日々の活動記録(日報)を書き続けている。電話がなる。炊き出しの食材の不足を訴えてくるボランティアに、「工夫をしてくれ」と坂根が頼む。250食の予定が350食にいつの間にか変更されていたらしいが、連絡が不備だった模様。反省と点検がしばらくの間、全員の会話の中心となる。救援物資が大阪事業連から4トン車で到着する。大阪からここまで5時間かかったと泉北生協のベテラン運転手は渋滞状況を話しながら、帰り道のルート探しをはじめている。

すでに8時をすぎる。なにをしたのか、なにができたのかは判然としないままに、夕食後の全員ミーティングが始まる。生産者から送られたの大根100本が在庫になったままである。この処分をめぐる議論が続くが、結論がしやすい問題ではない。学生ボランティアの井川が明朝、露店で「1円以上」で売るということになる。被災地全域で生鮮野菜の不足が深刻である。

12時を過ぎると順次就寝。深夜2時、3時まで、「震災と救援とボランティアとは」の議論が続く。そして、現地救援本部の1日が終わる。被災後2ヶ月が近づいてくる。状況の変化に即応できる救援体制が確立できない焦燥感をいだきながら、ここでもまた眠る以外にない。明日は早朝6時出発の炊き出しである。

